

昭和47年(1972年)7月30日

石綿肺で13人死ぬ

奈良の2工場 30年以降

奈良県下の二つの石綿工場で、
 三十二年以降、計十三人の従
 業員が石綿肺(じん肺)の一種の
 ため死にしていることが、二十九
 日までの同県公明、共産党宛など
 の調べでわかった。石綿肺は、け
 い肺などではなくて職業病(早く
 から認定され、労基局などを中
 心に工場環境の改善が指導されて

いた。それだけでなくこの調査結
 果は、関係者にショックを与えて
 いる。
 問題の工場は、同県北葛城郡王
 寺町、日本アスベスト王寺工場
 (本社・東京都港区芝大門)と同
 県生駒郡斑鳩町、富田工業(中根
 俊一社長)。両工場とも石綿を原
 料に、自動車ブレーキ用の摩擦材

などをつくっている。王寺工場
 は、四百二十人の従業員をわか
 え、業界一の規模。富田工業も日
 本アスベストの専用工場。
 死んだのは王寺工場で四十六年
 二人、四十五と四十二年に各二
 人、四十年三人、三十五、三十年
 各二人の計九人。富田工業は四十
 七、四十六年に各二人、四十五年
 二人の計四人。このほか石綿肺で
 治療中の患者が両工場合わせると
 二十八人になるといふ。
 これらの従業員は、原料の石綿
 をほぐしたり、袋につづり、舞
 上がった石綿を長年にわたって吸
 い続けていた。王寺工場の患者を
 診断している奈良県立医大第二内
 科の宝来善次教授の話では、肺の
 中に石綿の粉じんがたまる、肺
 の換気が不十分になる一方、石綿
 に犯された部分が肥大して血管が
 細くなったり、つまり、炎症を
 起す。体力が弱まり、肺炎から死
 にいたることが多いという。